

第5章 職業能力開発施設における教材のKMについて

第5章 職業能力開発施設における教材のKMについて

この章では職業能力開発施設における在職者訓練・離職者訓練等の教材ナレッジマネジメントの現状について把握し、問題点・課題を整理する。

第1節 能力開発施設における教材の共有化の事例

ここでは、雇用・能力開発機構立の職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）及び職業能力開発大学校（ポリテクカレッジ）の教材の共有化の事例について述べる。

(1) ポリテクセンターA

互いの教材テキストをコピーしたりして、極力共有化を図っているところである。テキストは電子データとして保存し、これを系の指導員が使えるようにしてある。また、ペーパー教材は、一カ所にまとめておいて閲覧できるようにしている。

(2) ポリテクセンターB

テキストを印刷物として保存してある。それを系の指導員が使えるようにしてある。依頼すれば電子データをもらせる体制としている。一部の補助教材は共有しているが、市販のテキストを使うことが多いため、あまり活用されていない。どちらかいうと業務関連のデータを共有して活用することが多い。

テキストを電子データとして系のサーバに保存してある。これを系の指導員が使えるようにしてある。転勤者に対して直ぐに対応できるように、教材だけでなく授業（アビリティ・セミナー）全体の流れも電子データ化して、教材と一緒に保管してある。以前の施設では、電子データだけでなく印刷して図書室に保管することが義務づけられていた。居住系でもそれに習って教材の共有化を図っている。

(3) ポリテクセンターC

職員全体が共有しているサーバ上のフォルダに公開している。主にセミナー関係で使用した補助テキスト、ソースファイル、設定ファイル等を共有している。系/情報システム科/授業資料/ユニット毎にフォルダを整理している。但し全てのユニットは現状では揃っていない。

アビリティ関係授業で使用した補助テキスト、カリキュラム、コース概要等については、終了後、プリントミス指摘や追加資料等バージョンアップに努めている。また、センター内での利用等に限り誰でも使用可としている。なお、高度化研修等での資料等は受講後、回覧している。

(4) ポリテクセンターD

施設のサーバに各系のフォルダがあり、そこに共有のデータが保存してあり、全職員が参照できる体制となっている。すぐコピーできるように、紙でもファイリングしてある。

(5) ポリテクセンター E

① 居住系

いつでも、誰でも必要なときに取り出せるという意味では、すべての教材が共有されている状況にはないが、各担当者で「いつでも提供できる」状態にはなっている。その場合、印刷物とデジタルデータをセットにして物理ファイル化しておくよう心がけている。

② 機械系

テキスト・教材は系内のグループ毎で原則共有している。形態は電子データ、印刷物両方。なお、一部は共有されていないものもある

③ 情報系

サーバ上に電子データをおき、利用できるようにしている。結果、転出された先生のテキストデータを後任者が編集等して、利用できる環境にある。

ただ、MacOS などの OS による問題、編集アプリケーションの問題など、完全に全てが利用できる状態にあるとは言えない。

また、ほとんどのテキストが紙面で印刷されて、一箇所に管理されている。

④ 電気・電子系

殆どのテキストは、系のサーバに電子化して保存してある。系のメンバーはそれを使用している。

(6) ポリテクセンター F

各系のファイルサーバに電子データとして教材を保存している。教材は自作及び他の施設からもらったものである。テキストや補助教材、実習資料およびサンプルプログラムなどをセミナー単位に分けて保存している。

教材は指導員が自由に利用できるように共有している。

(7) ポリテクセンター G

① 機械系

テキスト類は、セミナー単位で紙ベースにてファイルし書庫に整理してある。セミナー担当者は、必要時コピーし利用できる。一部電子ファイル化してある。

② 電気・電子系

テキスト類は、セミナー単位でほとんど電子ファイルにてファイルし整理してある。セミナー担当者は、必要時利用できる。

(8) ポリテクカレッジ A

① 機械系

イントラネットを構築している。各職員個人フォルダとは別に、機械系職員共有フォルダ、応用機械職員共有フォルダ、生産技術職員共有フォルダ、制御技術職員共有フォルダを作っている。また、学内イントラネットにおいても共有化が図れる環境にある。

テキストの電子データなどの登録は、一部だけであまり利用されていない。授業では、

市販の教科書、実践教育研究会からの教科書を多く利用されている。実習では、自作資料、抜粋資料、雇用問題研究会テキストを活用している。セミナーでは、自作テキストを使用している。ポリテクカレッジでは、個人主導の授業が多く、他の専門分野、他の教員の作成した資料での授業展開が少ない。また、自作資料は、個人が授業展開するためのもので、他教員が使うことを前提にして作成されていない。

② 情報系

担当の授業が割り振られているため、共有化はできていない。しかし、テキストを電子データとして保存している職員もいる。

(9) ポリテクカレッジ B

職員自身に共有するという概念自体が少ない。この違いは「各職員の意識」、「音頭をとってシステムを作り上げるリーダーの有無」、などの要因が大きいと考えられる。

(10) ポリテクカレッジ C

現在、教材は共有化されていない。

事例から調査施設の半数以上は、作成した教材を電子データと紙データの両方を一つにまとめ、書棚に分野ごとに整理されていることが分かる。指導案、指導例も作成し、即実施できる状態にしてある。

1. 共有化の進んでいる施設の要因としては、

- 1つのセミナー、アビリティ等を複数で担当している。
- 人事異動等を考慮し引継ぎしやすいようにデータを残している。

共有化の必要性が明確であることが挙げられ、データ共有はファイルサーバを利用（全職員用、系職員用）している。一部紙ベースも併用して場合もある。

2. 共有化されない施設の要因としては、

- 担当科目が分担されていて、施設内で共有するメリットが少ない。
- 著作権に関わる部分の判断をしかねる場合がある。

共有化の必要性が認められないか、または、問題点に対する解決が不明確であることが挙げられる。

第2節 新規セミナーコース開発時のナレッジの収集について

新規コーステーマの決定と開発時のナレッジの収集手段について事例を述べる。

(1) ポリテクセンターA

大多数は、カリキュラムモデルを参考にしている。今後特に重要と思われる分野に焦点を当て自己研鑽する。セミナーのなかで半日の時間をとり、受講生とディスカッションをしながら各会社の課題に関する情報を収集する。

(2) ポリテクセンターB

企業ニーズの調査を行い、カリキュラムモデルを参考に設定する。テキストは既に実施している施設（実績の良い施設）、民間、インターネット等より情報を得る。指導員の個人的な情報網（メーリングリスト等）から情報を得る場合もある。

基本的に、市販のテキストを利用している。無いものは自らテキスト作成、もしくは、その分野が得意である職業能力開発総合大学校、機構能力開発施設の先生、企業の方から情報を得ている。ディスカッション内容から計画を立てることもある。

(3) ポリテクセンターC

民間セミナーの動向、企業訪問による調査から新規コーステーマの決定を行う。

(4) ポリテクセンターD

知り合いの職員から情報を入手し、当センター用にアレンジしている。

(5) ポリテクセンターE

① 居住系

施設として新規コースであるものは、ほとんど指導員のオリジナルテキストである。他施設に知人がいれば、その知人から提供を受ける。

市販本が使えるものはこれを主要教材とし、補足資料等は指導員のオリジナルである。

② 機械系

すでに実施の施設からテキストを取り寄せたり、知人から情報を仕入れている。部外講師から開発を協力してもらうことが多い。市販の図書等を参考に自分で企画・実施する。これらの複合的な実施が挙げられる。

③ 情報系

昔から独自テキストを作成するという雰囲気があり、ほとんどの指導員が新規コースであってもテキスト作成をしている。

間に合わない状態の場合にも、市販本をメインテキストにはしますが、参考資料と称して、テキストを作成している方が多いようである。最近講師の転入出の関係でその雰囲気も薄らいできているような感じはある。

④ 電子・電気系

現状は個人で開発しており、人により異なるが、参考資料やインターネットの情報を基

に一から作成している事が多い。

著作権とも絡むが、引用が多くなっていることは否めない状況です。その他、市販テキストを購入して使用しているコースもある。

(6) ポリテクセンター F

他施設で実施しているセミナーの状況などを聞き、そこから自施設でニーズのあるものを設定している。テキスト等はそのセミナーで使用しているものを参考に決めている。

他施設で実施していなくてニーズのあるものについては、雑誌やインターネットの情報を参考にして内容やテキストを設定している。

(7) ポリテクセンター G

以前の施設で実施していたものや今までのセミナーの発展型が多い。技術雑誌、インターネットから情報収集する。

自作テキスト中心である。情報分野はソフトのバージョンアップが早いため、市販のテキストを使うことが多い。インターネットや知人から情報を仕入れ、授業しやすいテキストを選択する。

(9) ポリテクカレッジ B

① コース内容：企業訪問、アンケート、電話問い合わせ、他施設の調査

② 授業内容の下調べ：他施設の調査、インターネット、書籍、雑誌、知人等

(10) ポリテクカレッジ C

主に以下の方法にて情報収集している。

- ・ 専門書籍・雑誌・機構内の他施設で実施しているセミナー・民間のセミナー
- ・ インターネット

① 居住系の例

高度ポリテクの情報や教材を頼ることもあるが、著作権の問題、企業独自の見解等により、即利用できるとは限らない。先端的技術内容となると、やはり、公的機関の情報（書籍、雑誌上での記事、HP）に頼ることが多い。ただし、先端過ぎてコース開発した後から基準ができてしまったこともあった。

② 情報・通信系の例

民間セミナーの動向（富士通ラーニングメディア、SRCなど）企業訪問によるニーズ調査を元に行っている。他施設で実施しているセミナー状況を聞きニーズ調査をする。

雑誌、インターネットの情報、口コミから内容やテキストを設定する。

第3節 教材共有化の課題

教材開発には多大な労力が必要である。限られた時間の中で内容を調査し、執筆をしている。すなわち教材（作成した出版物も含む）は著作物となる。著作物となれば著作権が発生する。著作権について、出版物コピーの許容範囲についてだけでなく、職員の著作権についてのガイドラインも必要である。

共有化を前提に作成した自作資料等があるが、提供ばかりで見返りがないので自嘲気味のケースがある。一部には、授業準備のサボタージュになりかねないとの批判の声がある。

教材開発においては、専門分野のナレッジも必要であるが、著作権に関しての理解と著作物の利用に対してのナレッジが必要である。今後は、職員の開発した教材の著作権についての管理が重要になってくると思われる。テキスト等を自宅で作成した場合など解決すべき点が多い。

また教材・教材情報について、常にバージョンアップ（修正、改善）を行い、変更点の履歴も残すことが重要である。